りんご情報 No.4

令和７年　５月２日発行

ＪＡグリーン長野営農販売部・経済部

◆生育状況について

１．ＪＡ管内　ふじ生育

	発芽	展葉	開花	満開	落花
平年	３／２８	４／９	４／２３	４／２６	５／１
令和７年	３／２６	４／９	４／２２	４／２５	
令和６年	４／１	４／１０	４／２０	４／２４	４／２８
令和５年	３／２２	３／３１	４／１２	４／１７	４／２２

◆当面する重点作業について

１．降雨が少なく、乾燥状態がつづいている場合は、10a 当り、２０～３０㎜程度の定期的なかん水を積極的に行い、玉肥大を促す。基本的には晴天が５日以上続き乾燥状態になる前にかん水を実施する。
２．摘果は「がく立ち」を確認でき次第、着果位置にこだわらず早期にあら摘果を実施する。
　あら摘果は隔年結果しやすい「ふじ」から実施し、満開３０日まで終わらせることを基本とする。
３．背中の新梢（徒長枝）は３０㎝に１本残し日焼け防止や側枝育成用とする。
４．第５回薬剤散布を適期に行い、各病害虫の予防防除に努める。
５．フラン病の発生が散見されています。（特に胴フラン）見つけ次第処分を行う。
６．毎年メンチュウの発生が見られる所は、背中の徒長枝や根元のヒコバエを整理し風通しを良くする。
７．計画的に下草管理を行う。

◆不受精（カラマツ）・中心花の無い・変形果（花）の対応について

発生が多い場合の対策、下記内容で対応する。

１．結実の良い園・品種から作業を行う。
２．中心果が無い場合は側果で対応し着果量確保を優先する。
　１）ふじ　　：着果が少ない場合は側花（果）で対応し着果量を確保する。
　２）その他の品種：着果（花）量が多い場合は花そうごと摘果（花）する。
　　着果量が少ない場合は上枝の着果量を増やすか、側花（果）で対応する（サビ果・変形果など品質低下はする）
３．着果が少ない場合は樹勢が強くなりやすい。強い枝の先には品質が劣っても着果させ樹勢を抑える。
４．カルシウム欠乏になりやすいのでカルシウム剤の葉面散布を行う。

◆腐らん病処理講習会開催について

増加している、腐らん病の処理講習会を実演で開催いたします。都合のよい会場で受講してください。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
５月８日	木	午前　９：３０	若穂果実流通センター	寺澤
		午前１１：００	中真島中央道（真島）	根津
			福島　宏之様園（瀬原田）	徳武
		午後　１：３０	信更流通センター	佐藤

講師：長野農業農村支援センター

YouTube で「長野農業農村支援センター」を検索！「りんご腐らん病　削り取り動画」が閲覧できます。

◆第５回薬剤散布について

１.散布時期：５月１４日(水)～１８日(日)　　散布日　　月　　日

２.調 合 量：水１００ℓ当り　※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展　　着　　剤	１０mℓ	―	―
㊞モスピラン顆粒水溶剤	２５ｇ	ｷﾞﾝﾓﾝﾊﾓｸﾞﾘｶﾞ・ｼﾝｸｲﾑｼ類	前日
オンリーワンフロアブル	５０mℓ	褐斑病・うどんこ病・赤星病	７日
ペンコゼブ水和剤	２００ｇ	黒星病・黒点病・斑点落葉病	30 日

３．散 布 量：１０ａ当り＝４００ℓ以上

４．留意事項

①アブラムシ類・シンクイムシ類の発生が多い場合は、モスピラン顆粒水溶剤を 2,000 倍（水 100ℓ当り 50g）で使用してもよい。

②カイガラムシ類発生園は、アプロードフロアブル 1,000 倍（水 100ℓ当り 100mℓ）を加用散布する。

③黒星病の発生が無く、褐斑病の発生が心配される場合は、ペンコゼブ水和剤に代えて、デランフロアブル 1,000 倍（水 100ℓ当り 100mℓ）を使用してもよい。

④落花２０日前後はサビ果が発生しやすい時期のため、展着剤の量が多くならないように注意する。また、多種の薬剤の混用も避ける。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

１．対策時期：第５・６回薬剤散布時、又は継続して月に１回程度

２．使用資材：

資材名	倍率	１００ℓ当り使用量
ストピットⅡ	５００倍	２００ｇ
スイカル	１,０００倍	１００ｇ
カルビタ	１,０００倍	１００ｇ
カルタス	５００～１,０００倍	２００～１００ｇ

３．注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。

◆苦土欠乏対策について

近年、苦土欠乏による黄変落葉が７月頃に発生することが多くなってきた。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

〔葉面散布の場合〕

１．散布肥料：グリーントップ 500 倍（100ℓ 当り 200g）又はリーフマグ 1,000 倍（100ℓ 当り 100g）

２．使用時期：５～６月に２～３回

３．留意事項：単用散布を推奨するが、定期薬剤散布に混用してもよい。

〔土壌施用の場合〕

１．施用肥料：硫酸マグネシウム２５　１０ａ当り２袋

２．使用時期：５月

◆ハダニ対策について

下草(ヒメオドリコ草・ギシギシ等)を観察し、ハダニの発生が多い場合には、バスタ液剤又はザクサ液剤（水 150ℓ当り 500 mℓ）を散布する。除草を図るとともに、ハダニの密度を減らす。りんごの枝葉には絶対かけない。

また、根元のヒコバエを切り取って直ぐに切り口に散布すると、吸収されて薬害が出る場合があるので注意する。

◆高密植（新わい化）栽培のフェザー苗定植後のについて

1. 誘引

1）主幹を支柱に固定・・・固定した方が伸びは良い。

2）長いフェザーの下方誘引　45度　引きすぎない。

短いフェザーはそのままでよい。誘引時期が遅くなると新梢が上向きに伸びやすい（枝がＪの字になる）

2. 生育が不良な場合

1）台木地上部が長すぎないか・・・地上部を20cm以内にする。

2）深植えしていないか・・・呼吸できない・水がたまる。

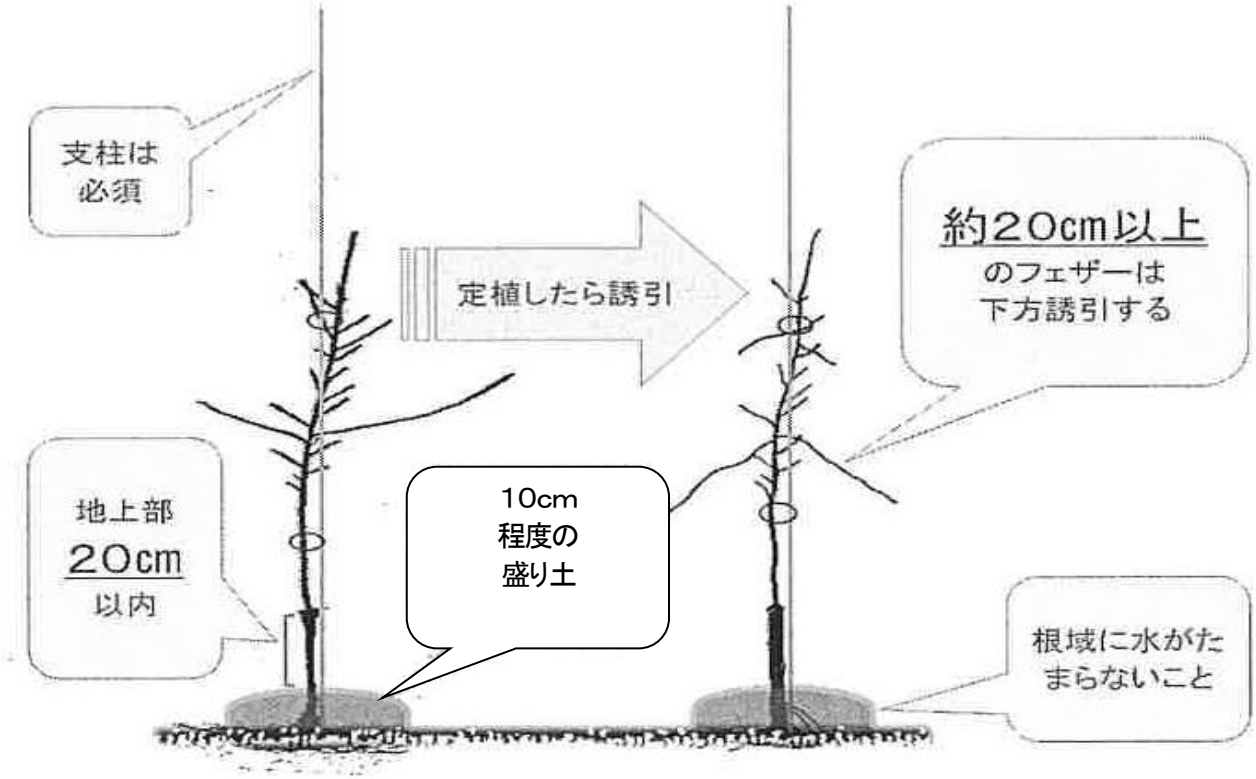
3）根域が確保できているか・・・土が固い・草が茂っていると根が伸びない。

4）接ぎ木テープが食い込んでいないか。

5）排水が良いか・・・降雨後に園地に水たまりが出来ていないか確認。

6）施肥・葉面散布の実施・・・弱りすぎていると吸収できない為効果が無い。肥料焼けに注意。

7）管理（摘果・草刈り・乾燥防止のワラ・病害虫防除・かん水など）は適正か。



◆高密植（新わい化）栽培について

１．樹勢の判断について　※平年の生育進度の場合

１）新梢の停止時期で判断します。

２）５月　５日前後に停止・・・極めて弱樹勢。硫安 10 kg/10ａの施肥と葉面散布（尿素 500 倍）
５月１５日前後に停止・・・弱樹勢。葉面散布を行う。尿素５００倍（水 100ℓ当り 200g）
５月２５日前後に停止・・・適正。満開４０日前後でほぼ１００％の新梢停止。

２．着果管理について

１）過度な着果負荷は、樹勢の衰弱や貯蔵用分の不足による凍害・枯死、隔年結果、品質低下などの原因となる。早期の着果管理で樹勢を維持する。

２）人の手による作業で着果管理が遅れるような場合は、次年度から薬剤摘花・摘果を検討する。

３．苦土（マグネシウム）欠乏について

１）５月中下旬頃に発生しやすい。新梢伸長が旺盛な若木は激発しやすい。

２）シナノドルチェ・秋映・シナノゴールド等で出やすいが、ふじやつがるでも発生する。

３）グリーントップ 500 倍（100ℓ当り 200g）やリーフマグ 1,000 倍（100ℓ当り 100g）を２回程度、薬剤散布に加用して軽減する。

４．施肥について

１）成木の全品種共通　　時期：５月中旬～６月
内容：「硫安」１樹２０ｇ前後　樹勢・着果量に応じて調整する。
「硫マグ２５」２袋／10ａ当り

２）定植１年目は、５月中下旬以降に主幹伸長を確認しながら、必要に応じて７月末まで窒素施用する。
２週間間隔で２～３回、「硫安」を１樹当たり２０～３０ｇ施用する。

３）定植２年目は、５月中下旬に樹勢が弱い場合は「有機専科」を 10ａ当り１袋施用する。